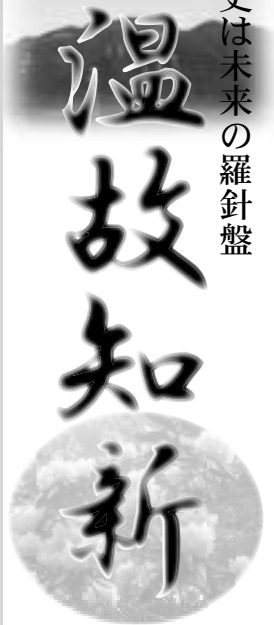


歴史は未来の羅針盤



日野町史『近江日野の歴史』第一巻「自然・古代編」を平成一七年二月に刊行しました。第二巻「文化財編」は平成一八年度末に刊行予定です。今後、町史の内容や調査報告などを紹介していきます。皆さんに町史に親しんでいただき、実際に手に取ってご覧いただきたいと思います。

天気に関する郷土のことわざ

天気に関することわざは、人々の生活の経験の中から生まれてきたもので、綿向山や飯道山、近江鉄道やJR草津線、日野菜などにちなむのがみられます。

第三節では、日野町内でなじみ深い天気に関することわざを集め、実際の気象現象との関係から科学的な考察を行いました。

この節で取り上げていますことわざは、平成一五年度に行いました町民の皆さんからのアンケートにより寄せられましたものの一部

第一巻は「自然編」と「古代編」から構成されています。「自然編」では、日野の気候・地質などの自然環境、および日野に見られる植物・動物などの種類や分布について分かりやすく解説しました。また「古代編」では、人類が登場してから平安時代までの日野町とその周辺の歴史についてその特色をまとめました。今回は「自然編」第二章「気象と気象災害」の中から一部を紹介いたします。

気候のあらまし

第一節では、気候観測データから、滋賀県の中での日野の特色が明らかにになりました。

日野は県内に八つある気候区のうち、山間部が甲賀気候区、平野部が湖東南気候区に属します。日野は滋賀県の中でも琵琶湖から遠く離れているため、その気候は琵琶湖の持つ気温変化を和らげる作用を受けにくい条件にあります。平野部で夏と冬、昼と夜の気温差が大きいのはそのためで、日野の地理的な条件に関係するものです。

日野の降水量については年間一八〇〇〜二〇〇〇ミリメートルを記録する山間部に比べ、平野部では年間一五〇〇ミリメートル前後と、県内でも最も降水量の少ない地域であることが観測データから裏付けられました。もともと滋賀県は、県境部の山地によって暖かく湿った空気が遮られ、平野部での降水量が少ない気候条件にあります。日野でも夏を中心に水不足に悩まされ、農業用水やため池の水の確保が人々にとって重要課題でありました。このことが気象データの分析によってもよく分かります。



▲晴天の綿向山

◆『近江日野の歴史』第一巻

「自然・古代編」発売中
各公民館や教育委員会において、一冊四・〇〇〇円（税込み）で販売しています。ぜひお買い求めください。